

誰もが知りたい
ローザンヌ宣教シリーズ

No.9
伝道と都市化



*Let
the Earth
hear
His Voice*

**Lausanne
Occasional
Papers**

No. 9
Thailand Report -

**Christian Witness
to Large Cities**

Lausanne Committee for World Evangelization

関西ミッション・リサーチ・センター/日本福音同盟

誰もが知りたい
ローザンヌ宣教シリーズ

No. 9

伝道と都市化

(1 9 8 3 年)

邦訳出版に際して（理事長 服部嘉明）	1
伝道と都市化	
序 論	3
1. 世界の都市化	4
a 地理的・社会的空間における同質群地域	6
b 非地理的・社会的空間における同質群グループ	6
c 異質群地域	6
2. 聖書の命令と都市伝道の資源	7
a 聖書中の場所	7
b 聖書中の人物	11
c 聖書中の原則	11
3. 都市伝道における地域別の戦略	14
a アフリカ	14
b アジア	17
c ヨーロッパ	24
d ラテン・アメリカ	30
e 北アメリカ	39
f 東南アジアと大洋洲	47
4. 都市伝道の反省	55
COWE以前の会議召集者の文書に見られる 回想的主题	
5. 大都会にいかに関心を喚起させることが出来るか？	56
都市伝道に関する協議会からローザンヌ世界 宣教委員会（LCWE）に対する提案	
参考文献・情報源	57

ローザンヌ宣教シリーズ

邦訳出版に際して

近代におけるキリスト教会の宣教歴史にとって、1974年7月、スイスのローザンヌで開かれた世界宣教国際会議は、極めて画期的なものとして高く評価されてきました。単に、世界150カ国から、プロテスタント135教派または団体から、約2500人がキリスト者にとっての至上命令である宣教について、共に考え、学び、論じ、祈りあうために集まったというだけ、その評価のすべてではありません。（もちろん、それ自体すばらしいことです）。むしろ、次の二点にそのような高い評価の焦点があるようです。ひとつは単に10日間という会議だけに終わらず、そこで考え、論じられたことが、継続的、かつ進展的に今に到るまで尚も、変動を続ける現代の世界において教会は如何にその宣教の責任を果たしてゆくべきか、組織的に委員会などによって考え、論じ続けられていることです。1980年6月にタイ国のパッタヤで開かれた「世界宣教協議会」などはそのよい例です。もうひとつの点は、世界における福音宣教ということが、垂直線的にのみでなく、それとともに、文化及び社会をグローバルに、巾広く捉えながら人間の全人的な救いということとして、福音主義の立場から真剣に取りあげられて来たことです。

今まででもそうでしたが、特に現代では、キリストの福音宣教、世界の福音化ということは、各自、各教会が、おのの置かれている文化的、社会的現実の中で宣教の業に参与しながら、同時に広く世界的な視野に立った教会、または各自としての性格づけ、位置づけを前向きの姿勢で維持してゆかねばなりません。ローザンヌ宣教シリーズの多くは、そのような大切な問題を極めて適切に取扱っています。また、関西ミッション・リサーチ・センター（KMRC）も、その創設当初より、日本という文化と社会の中にありなが

ら、世界的な視野をもった福音主義の宣教研究所として活動して来たことを思いますと、今回そのシリーズを、日本福音同盟の理解ある協力を得て、このような型で邦訳出版し得るのは、神の不思議な御摂理であると考えざるを得ません。今後、順次邦訳出版する計画のこのシリーズは、いづれもキリスト者であれば文字通り「誰でも知りたい」内容のものであることを確信しています。また、出来るだけ多くの人々に、愛読書宣教シリーズとして利用して頂き、みんなで、日本の宣教、世界の宣教について考え、学び、祈るための貴重な資料となるよう願っています。

終わりに、このシリーズの日本語翻訳及び出版権を許可下さったローザンヌ世界宣教国際会議の継続委員会と、このシリーズの出版に全面的に協力して下さいた日本福音同盟、また側面から支援して下さいたノールウェー・ルーテル伝道会に心から感謝の意を表わします。

1983年4月3日イースター

関西ミッション・リサーチ・センター (KMRC)

理事長 服 部 嘉 明

伝道と都市化

序 論

世界宣教の現実的な戦略を検討するに当って、我々はどうしても、この驚くべき世界の都市化の問題を避けて通ることは出来ない。それ故にこそ、世界宣教協議会（COWE^{*}）は、17に及ぶミニ協議会の一つに、「大都市へのキリストの証し」を指定することによってその挑戦を認めているのである。

我々の当初の目標は135の世界的な都市（人口100万以上か、あるいは国際的な意義を持った都会）で、ソ連と中国大陆を除く6大陸に散在する都市を調査の対象とすることであった。協議会前の1年間に、地域毎の学習グループが会合した。この地域毎の学習グループの約半数は、協議会以前の学習グループとミニ協議会の国際的な会議召集者の許に報告を提出した。5頁から75頁に及ぶこの報告書は事前に協議会参加者に手渡され、提出論文の要約の基礎となったのである。

協議会の席上では、110名の参加者が6大陸グループに分かれ、報告の第3区分を構成する各大陸毎の大都会に居住する人達への伝道に関する特定の目的、資源についての検討に殆んど時間を費した。

我々は大都市における伝道の挑戦を強く感じ、またそのような巨大なセンターに見出される明らかな多様性と共に、十分にその目標や戦略について討議するための時間的制約などを痛感した。

しかし、この報告書は教会、特に大都市に居住する人々にイエス・キリストの福音をもたらそうとしている働き人を助けることを目的として提出されている。我々としては更に分析がなされ、これによってさらに新しい戦略がもたらされることを願うものである。

*世界宣教協議会（COWE）1980年6月タイのパッタヤで開かれた国際的な協議会で約800人の教会指導者が参加した。